

「近代西洋歯科医学の先駆者・一井正典・生誕150周年」*1

熊本県歯科医師会会員 松本 晋一*2

要旨：熊本県人吉市出身の明治期の歯科医、一井正典の生誕150周年にちなみ、2012年6月の第2週、地元人吉市の有志により記念行事“ドクタージュグリット・ウィーク”が行われた。内容は1)「一井正典先生・町なか人物展」2)「町なかミニ講話」2演題 3)「生誕150周年献花式」4)ジュグリット先生講話及び講演会 5)生誕150周年記念誌刊行の5行事である。これらの行事開催により、郷土の先人に対する人々の認識がより深まること、それには報道メディアの協力が不可欠であること、その逸材を輩出した背景が重要であること、その人物遺産を今後はどう活かし、どう次の世代につなげるかが大切であると考え。

キーワード：一井正典、ジュグリット先生、生誕150周年

Summary： Due to Dr. Masatsune Ichinoi's 150th anniversary of his birth, we held ceremony “Dr. Juguritt Week” in his hometown, Hitoyoshi city, Kumamoto Japan

The contents of the ceremony were 1) Dr. Masatsune Ichinoi exhibition. 2) two short lectures. 3) offering flowers ceremony. 4) Dr. Juguritt lecture meeting. 5) Published the book for 150th anniversary of his birth.

From this ceremony, it is important to learn our local predecessor, to cooperate with media, to know the reason why we choose this talented person, and to pass down his will to the next generation.

Key words： Masatsune Ichinoi, Dr. Juguritt, 150th anniversary of his birth

1. はじめに

ジュグリット先生こと、一井正典（いちのいまさつね）先生は江戸末期の文久2年（1862年）6月8日、九州・相良藩（現人吉市）生まれ。明治維新の後に14歳で西南戦争に従軍、江嶋五藤太の支援により上京。文明開化の幾多の波濤を越え明治18年に牧師・美山貫一の世話で渡米、現地でサンフランシスコのドクターバンデンバーグに師事します。その縁により歯科医学を専攻、東海岸

のフィラデルフィア・デンタルカレッジに進み大学を首席で卒業、日本人として初めて米国本土で歯科医院を開業。さらに日本人初の教授並びにアメリカ歯科医師会会員となった人物です（図1）。渡米10年後の明治27年には日本に帰国。東京神田に開業、後に高山歯科医学院（現東京歯科大学）の講師、文部省開業試験委員を歴任。東京都歯科医師会、日本歯科医師会の創設にも寄与し、後には明治大正昭和の三天皇の侍医等を務めた人物です。帰国後の一井は当時の日本に各種の近代西洋歯科学を紹介、普及しています。その学歴、識見等は米国の医療倫理及び医療管理、アシスタント制度の導入、当時の新しい医術＝ポーセレン術、金冠術、麻酔術の導入・普及などに現れています。

*1 Dr. Ichinoi Masatsune, A pioneer of modern dentistry in Japan and the 150th anniversary of his birth.

*2 Shinichi Matsumoto (member of Kumamoto Dental Association)



図1 一井正典

幸いなことに、本年、6月8日(金)には一井正典先生の生誕150周年目を迎えました。この150周年の節目に、一井正典という郷土熊本県出身の偉人、日本歯科界の先駆者について、地元の人吉市でその人物像の紹介や献花式など各種の行事企画が成されました。

具体的には下記のように6月第2週の「歯の衛生週間」にもちなみ、「知ってますか? じゅぐりっと先生」(図2)をメインタイトルに“ドクター ジュグリット・ウイーク”と称し、市民有志の「ジュグリット先生を讃える会」(前田一洋会長)による顕彰事業として、6月4日から10日までの第2週を生誕150周年記念週間として開催されたのです。

知ってますか? **じゅぐりっと先生**
近代西洋歯科医学の先駆者 **一井 正典**

正典は熊本県南地方の方言「じゅぐりっと」をよく使ったらしい。例えば「口のまわりをじゅぐりっと」と。そこで、学生が「先生、ジュグリットとは英語ですが、ドイツ語ですか」と質問すると「バカモン、君たち、日本語もわからんか」と叱る。「ぐるりと」という訓詞に、差意の接頭語「じゅ」がついたもので、以来、正典は「じゅぐりっと先生」とニックネームをつけられた。

お菓子の番物人吉店内にて人物展 6月4日(月)~10日(日)
6月4日(月) 午後1時より 日本歯科歴史学会 松本晋一さんミニ講話
6月6日(水) 午後1時より 演題「渋谷敦氏とじゅぐりっと先生を追って」
人吉市文化財保護委員長 井上道代さんミニ講話
演題「一井正典先生の当時の手紙から」

生誕150周年誕生の日 お祈りと献花式 6月8日(金) 午後12時30分~
人吉市寺町 人吉カトリック教会
献花式 一中プラスチック演奏会

じゅぐりっと先生講演会 6月10日(日) 午前10時~12時
講話 人吉市長 田中信孝さん
演題「偉人顕彰で郷土愛を育む教育を」
会場：老神神社会館 特別講演 人吉市総合病院 歯科口腔外科「別府真広」先生
演題「じゅぐりっと先生に会いたい」

主催：じゅぐりっと先生をたたえる会(会長：前田一洋)
後援：人吉市・人吉市教育委員会・人吉市歯科医師会・熊本県歯科医師会
熊本県歯科医師会・人吉市歯病会・熊本医科大学・日本歯科歴史学会
お問い合わせ：Phone：0966-23-3967 寄贈(要領は別紙)
Phone：0966-22-2111 人吉市企業連合会改定課(内線2226)

一井正典(いちのい まさつね)先生が誕生して150年目になります。郷土の偉人である、じゅぐりっと先生をみんなで学びましょう!

図2 ジュグリットウイークちらし

この一井先生は同じ九州熊本出身の歯科医師として個人的にも誠に興味深い人物です。しかしながら、現在の日本の歯科界、医療界全体、そして米国本土でもこのユニークな人物の存在はあまり知られておりません。

記念イベントタイトル：
「知ってますか? じゅぐりっと先生」
=近代西洋歯科の先駆者・一井正典=
期間：平成24年6月4日(月)~10日(日)
までの1週間

- 内容：1) 6月4日~10日「一井正典先生・町なか人物展」
場所：人吉市五日町47-1「お菓子の紅梅人吉店」展示室
- 2) 4日ミニ講話「渋谷敦氏とジュグリット先生を追って」松本晋一
場所：お菓子の紅梅人吉店 午後1時~2時
- 3) 6日ミニ講話「一井正典先生のアメリカの手紙から」井上道代(人吉市文化財保護委員長)
場所：お菓子の紅梅人吉店 午後1時~2時
- 4) 8日「生誕150周年献花式」
場所：人吉市寺町カトリック人吉教会 午後12時30分
- 5) 10日ジュグリット先生講演会
「個人顕彰で郷土愛を育む教育を」
講話：田中信孝(人吉市長)
「じゅぐりっと先生に会いたい」
講演：別府真広(人吉総合病院歯科口腔外科)
場所：新町老神神社会館 午前10時



図 3 町なか人物展 1



図 4 町なか人物展 2



図 5 ミニ講話 1「渋谷敦氏とジググリット先生を追って」

時～12時

主催：ジググリット先生を讃える会

後援：人吉市，人吉市教育委員会，人吉市歯科医師会，人吉市医師会，熊本県歯科医師会，東京歯科大学，日本歯科医史学会

この“ジググリット*”とは、熊本県近代文化功労者で近代西洋歯科の先駆者・一井正典のニックネームである“ジググリット先生”の名前を冠したものです。本年は一井先生が丁度生誕 150 周年の年にもあたることから、この名称を用いました。この名前の由来は人吉文化第 4 号「非凡？ 平凡？ (三)」の「ジググリットという言葉の話」¹⁾によるもので、話の中身は「(前略) 東京歯科医学校で教鞭をとって後進を導かれたこの人の講義の中に、ジググリットと言う言葉が頻繁に使用される。意味は解るが、英語だろうと思って辞典を調べて

もなし。独仏語かと調べてもなし、とうとう生徒の一人が立ち上がり、「先生のジググリットというお言葉は、どこの言葉でありますか？」と尋ねた(後略)」というエピソードから派生したと言われています。

※ジググリットとは、球磨弁(人吉地方の方言)で「ぐるりと」「周りを」という副詞に接頭語の「じゅ」がついたものです。

2. 生誕 150 周年記念行事の概要

6 月 4 日～6 月 10 日までの 1 週間、人吉市内五日町“お菓子の紅梅”の展示室にて一井正典写真及び歴史資料展並びにミニ講話 2 題が開催されました。

1) 一井正典先生・町なか人物展(図 3, 図 4)

展示内容は一井正典のスポンサー江嶋五藤太商店や江嶋五藤太本人と思われる写真、一井正典の米国第二の故郷ロスガトスの町、在学当時の大学と校舎、大学の礎石やフィラデルフィアの町の写真、第 20 回日本歯科医学会総会(2004 年)の際に展示したポスター「日本人第 1 号ドクトル一井正典、その在米時代について」、一井の卒業写真と診療室風景写真、美山寛一とドクターヴァンデンバーク、当時の手紙類やフィラデルフィアに関する本、東京九段下の医院及び荻窪の別邸写真、新旧の一井伝記本：旧は「青雲遙かなり」(平成 8 年 11 月刊)と新の「維新の若きサムライ一井正典とその時代」(平成 24 年 6 月刊)、これまでの学会(日本歯科医史学会、日本歯科医学会総会他)での発表資料、「志を活かす」として旧ジググリット先生を語る会、渋谷敦氏講演会、サンノゼ州立大での



図 6 ミニ講話 2「一井正典のアメリカからの手紙」



図 8 人吉一中ブラス部演奏

鹿児島大学日米未来フォーラム開催時のパネル写真などが展示紹介されました。

2) ミニ講話

ジュグリットウイークの皮切りは6月4日月曜、午後1時からミニ講話「渋谷敦氏とジュグリット先生を追って」(松本晋一講師、図5)からです。内容はパワーポイントを用いたスライドにより、1) 自己紹介及び渋谷敦氏紹介、2) 一井正典研究のきっかけ、3) 一井正典先生とは? 4) アメリカで見てきたこと、5) これまで研究してきたこと、6) 会場内展示資料紹介、7) 一井正典の生き方に学ぶ、などが紹介されました。中でも「一井正典生き方に学ぶ」では、“想いを形にすることが大切であること。そのためには①まず「志し」を持つ、②志しを言葉にする、③それを行動にうつす、④その志しを若い人々に伝えること、がポ

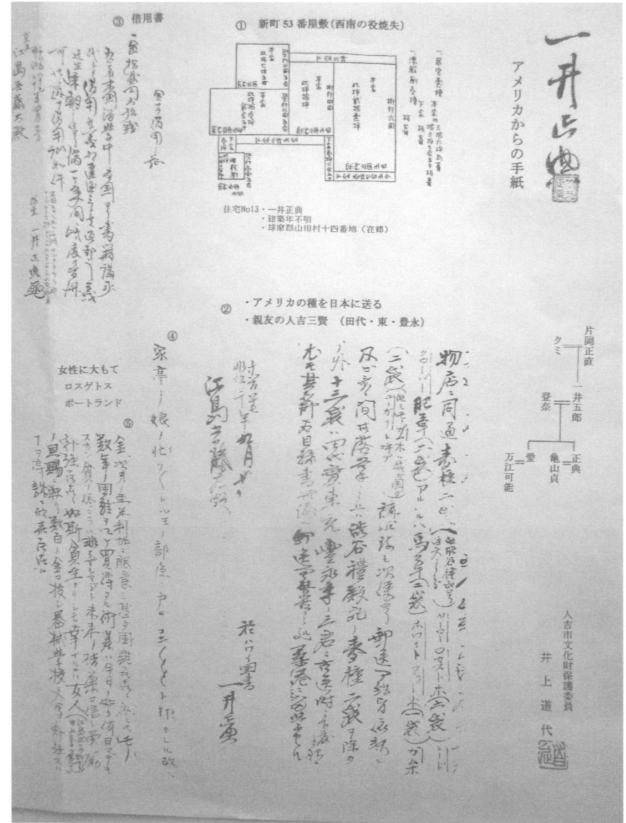


図 7 ミニ講話 2 手紙資料

イントとなることが話されました。

6月6日のミニ講話2回目は、井上道代講師(図6)が「一井正典先生のアメリカの手紙から」と題して、一井が米国から人吉の支援者江嶋五藤太宛てに送った100数十通の書簡類から数点を抜き書きした内容(図7)の紹介がありました。まずこれらの手紙に登場する約50名の人物紹介に始まり、十年戦争で焼ける前に父一井五郎が建てた屋敷配置図の紹介、アメリカの植物の種を人吉の3名の友人に送った内容、金子借用の証書、米国でのヴァンデンバーグの娘メアリーと一井とのやりとりの一端、江嶋の養子権十郎への歯科医になる道へのアドバイス、そして一井の持つユーモアセンスの一端として“酒はよいもの”の語呂合わせや、地元の川魚を絵に描いた手紙内容の紹介など実に興味深いものでした。

3) 生誕150周年・記念献花式

その週の後半6月8日の金曜が記念行事のメインである献花式です。あいにくの雨模様の中でしたが、午後12時30分よりカトリック人吉教会の礼拝堂にて一井正典生誕150周年献花式が行われ



図 9 生誕 150 周年献花式（写真額は孫の一井呉夫氏）



図 10 じゅぐりっと号観光バス（産交バス KK）

ました。まず、マイケルオファレル神父の先導で賛美歌「その人は幸い」の斉唱、次いで人吉第一中学校ブラスアンサンブルの「夕空晴れて秋風吹き」「グローリハレルヤ」演奏の下（図 8），一井家関係者を始め約 50 名の参加者全員が厳かに献花台にカーネーションを献花。来賓の田中信孝人吉市長，浦田健二熊本県歯科医師会長の挨拶の後，一井正典の孫で逗子市在住の一井呉夫氏（正典次男，次郎氏の長男）から「祖父も天国でさぞ喜んでいるのでは」とお礼の言葉を述べられました。

最後に全員での記念撮影（図 9）の後，産業交通バス人吉営業所の一井の愛称を冠した観光周遊バ

ス「じゅぐりっと号」（図 10）に乗って一井家墓地の在る永国寺に移動，墓地前の顕彰記念碑に献花をして無事に式全体が終わりました（図 11）。

献花式の内容は当日夕方の NHK テレビでも県内に放映されました。

4) 「ジュグリット先生」講演会

ジュグリットウィーク最終日の 6 月 10 日（日曜），午前 10 時よりカトリック人吉教会にほど近い老神社会館で一井正典に関する講話・講演・意見交流の会が，約 70 名の参加者を得て開催されました。内容は：

10：10～10：25 「温故知新」～過去を温め新しきを知る～田中信孝（人吉市長）

10：30～11：30 「ジュグリット先生に会いたい」
＝今だから知りたい近代歯科医学の先駆者・一井正典のこと＝
別府真広（人吉総合病院歯科口腔外科）

11：30～12：00 「みんなで語ろう人吉球磨の昔」と題し，ジュグリット先生や人吉の思い出を持ちより情報交換

最初の田中信孝人吉市長の講話では，人吉出身の偉人の中でも一井正典はユニークな存在であり，この人物を軸に米国との市民レベルの交流を

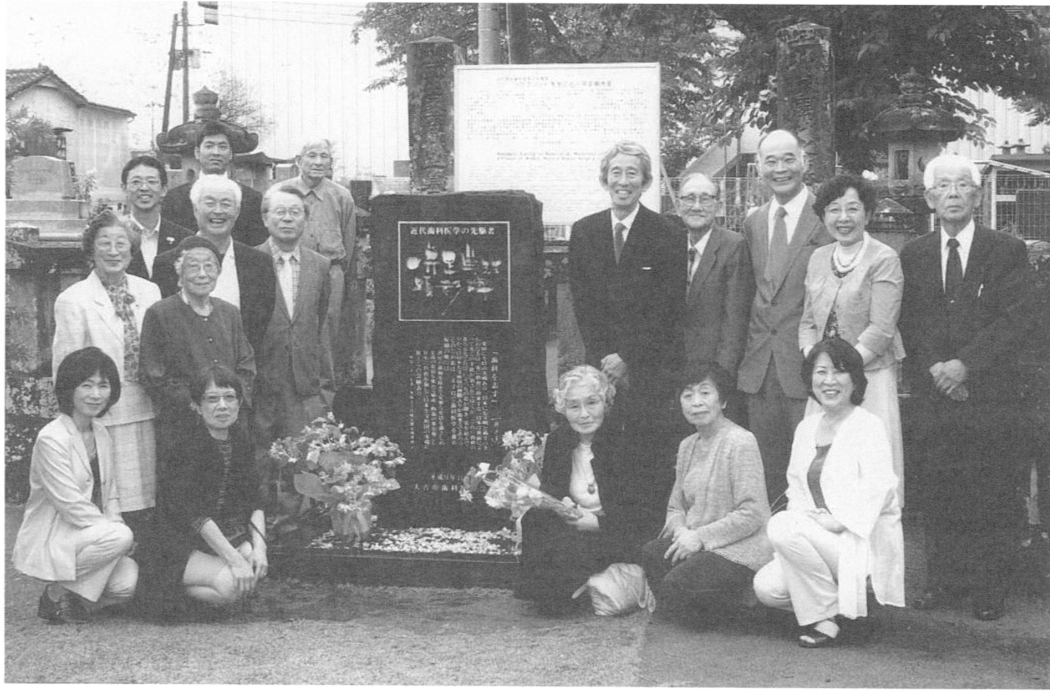


図 11 献花式後に記念碑前にて（永国寺）



図 12 別府真広先生講演会

して次の世代につなげてゆきたいこと。故渋谷敦氏の意向を汲み、予算が可能ならば1昨年に航空100周年で顕彰した人吉出身の飛行家・日野熊蔵と同様、映像としても一井を残すべきであることなどが語られました。

次の別府先生のパワーポイントを用いた講演「ジュグリット先生に会いたい」（図 12）では、一井を紹介するきっかけになった理由、一井の生誕から一井が出会った人物たちとの絆、歯科を志した背景、人生の転換期の決断と帰国後の開業に至るまでなど、分かり易い内容のプレゼンがなされました。

最後の情報交換会では、来場された方の中から浦田賢治熊本県歯会専務のご感想、一井正典が人吉に送った樹木を特定した鹿児島大学農学部米田健教授の研究成果紹介、幕末期の相良藩と島津藩の関係について原口泉志学館大学教授のコメント、フィラデルフィアの日系4世の所にお嫁に行かれた植木町の片山純子様のご挨拶等が披露されました。また一井正典の長男、一井正次の医院に勤務された荒尾市開業の故甲斐田全州氏の当時の思い出話などを追加として紹介。最後に記念写真（図 13）を撮影して、この一週間の行事のすべてを終わりました。

5) 生誕 150 周年記念誌「維新の若きサムライ、一井正典とその時代」の出版

今回、生誕 150 周年を記念して誕生日となる 6 月 8 日に熊本県歯科医師会（浦田健二会長）より記念誌が発刊されました。本のタイトルは「維新の若きサムライ、一井正典とその時代」。= 郷土の偉人一井正典・生誕 150 周年 = (図 14)。この本は著者の松本が昨年 11 月から本年 1 月まで熊本県歯科医師会の会報「熊歯会報」に 3 回に分けて発表した「維新の若きサムライ、一井正典とその人脈たち」²⁾を基に、大幅に写真や文面を加筆したものです。また今後の交流を踏まえ、米国や外国



図 13 講演会記念撮影（老神社会館）

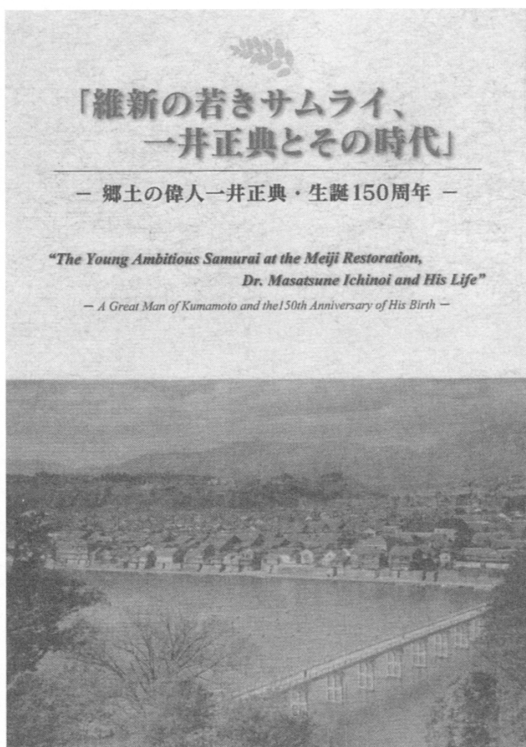


図 14 記念誌「維新の若きサムライ、一井正典とその時代」

の方にも判るように、タイトルや目次、はじめに、参考資料などの一部を英文での対訳としました。参考資料として「日本における一井正典先生の先覚性」及び記念碑銘文「歯科を志す」。付録として「一井正典・米国滞在地図」「一井正典年譜及び日本及び熊本県医療史」を掲載してあります。仕様はコート紙のフルカラーでページ数は56頁、A5版サイズで2500部を印刷。内容は可能な限り原史料や当時の写真を多用して書き下ろしたもので、歯科医師会会員向けの非売品です。この本はジュグリットウイーク最初の一井正典人物展及びミニ講話、献花式、講演会に間に合うように印刷の配慮がなされ、記念資料として来場者全員にも配布されました。平成8年11月初版の「青雲遙かなり」（渋谷敦著）と併せてお読みいただければ幸いです。

3. 来場者のアンケート内容から

今回、町中展示会やミニ講話、講演会などの際に、以前、2009年7月に人吉市民アンケート³⁾を行った時とほぼ同様の内容でアンケートを実施しました。回答者は全員でわずか28名と少ないのですが、いくつか今後の参考となる情報が得られましたので、かいつまんでご紹介します。

1) 回答者28名の年齢分布は主に50代7名(25%)、60代6名(21%)、70代4名(14%)が



図 15 熊本日新聞報道 (6月9日)



図 16 人吉新聞報道 (6月12日)



図 17 週刊ひとよし711号報道

主でした。1) 一井正典の名前を知っている人は25名(89%), 2) じゅぐりっと号バスを知っている人は26名(93%), 乗ったことのある人は12名(46%)でした。3) 「青雲遙かなり」の本を知っている人は19名(64%)ですが、実際に読んだことがある方は4名(13%)。4) 一井正典の事績で何か知っていることでは「人吉が生んだ歯科医で三代の天皇の侍医」が4名で多くを占めていました。5) 今回のミニ講話や講演会の感想では、①さらに詳しく聞けて良かった, ②「青雲遙かなり」の本を読みたい, ③この場に来られて良かった, ④その志しを多くの人に伝えたい, ⑤留学先のエ



図 18 広報ひとよし7月号
(左：筆者，右：前田一洋会長)

“My Ambition to be a Dentist”
「歯科を志す」一井正典

A Special Exhibition To Celebrate the
150th Birthday of Masatsune Ichinoi

Dr. Masatsune Ichinoi and the Spirit of Modernization in Japan
明治以降の日本へ近代化を導いたドクター 一井正典

1891年フィラデルフィアデンタルカレッジを首席で卒業し日本の明治・大正・昭和の三天皇の特権として仕えた一井正典展「生誕150周年記念イベント」をテンブル大学 Kornberg School of Dentistry にて開催します。Philadelphia にて歯科医学を学びその後日本で歯科医療のバイオニアとして活躍した一井正典の遺品、手紙などの歴史資料を展示し、昔の歯科医療器具や歴史的資料などを公開されている テンプル大歯学資料館・博物館を見学しながら一井正典の功績を称えましょう。

This year marks the 150th birthday of Dr. Masatsune Ichinoi, a pioneer of western dentistry in Japan. Dr. Ichinoi graduated from the Philadelphia Dental College (later, the Kornberg School of Dentistry at Temple University) in 1891. Ichinoi was the first Japanese dentist to open an office in Philadelphia, first Japanese to be a professor of dentistry at the Philadelphia Dental College, and dentist to three Japanese Emperors. Come and see a special exhibit about his extraordinary life and the history of dentistry at a time when Japan was just opening up to the outside world.

Join us in celebrating his distinguished service and contributions to dentistry.

Date/Time: Opening Ceremony & Reception: 3:00 PM, Friday, September 21
Exhibition on view from 10:00 AM to 5:00 PM, September 21 and 22
Free CE program on Saturday September 22 from 9PM-12PM

Place: Kornberg School of Dentistry, Temple University
Third Floor, Historical Dental Museum
3223 N. Broad Street Philadelphia, PA 19140

Admission: Free

More Information: (215) 499-1149
<http://japanphilly.org/ichinoi>



図 19 フィラデルフィアでの記念行事
(テンブル大学歯科歴史博物館)

ピソードが楽しかった，⑥身近な偉人である，⑦判りやすい講演であった，などの感想を頂きました。6) 郷土の偉人を教育や観光資源として活用するには？ では，①まず地域の人を知るべきである，②循環バスを一井正典号として年に数回走らせる，③偉人館や偉人展の開催，④授業でも子どもたちが受け入れやすい内容で取り上げる，⑤全国の歯科医に“祖はこの地なり”として研修旅行や家族旅行を企画する，⑥駅前に記念碑を建てる，などのご意見を頂きました。

今回の回答者，すなわち来場者は，ほとんどの方が恐らく郷土の先人への関心があつての来場と思われまので，一井正典の人物に対する認識度も相当に高いものと考えられます。

4. まとめ

この一井正典生誕150周年の記念行事を終えての個人的な感想ですが，やはり今回の行事の実施で，郷土の先人に対する人々の認識はより深まってきたと感じています。同時にこのことは歯科医師会や業界関係者への認知にもつながるものと思われま。

今回の事業実施にあたっては特に地元の各種報

道メディアの方々にご協力を頂きました。中でも日刊紙(図15, 図16)，週刊誌(図17)，行政関係の公的報道(図18)などです。やはり何と云っても，その企画と行事内容がマスコミや公的告知を通して住民市民らに伝わらなければ，参加者も賛同者も存在しませんし，また来場者が少なければその開催意義も低下します。どのような組織や団体であっても，単なる独りよがりの記念行事として開催するよりも，地域にこのような機会を通じて，私どもの歯科界における先人たちの存在をアピールする好機を得たことは大変良かったとその実施の効果を痛感しています。幸いこの人吉球磨地方には古くから丸目蔵人，岩崎重蔵，日野熊蔵，犬童球深ら，現代人では北御門二郎や那須良輔，川上哲治など多くの優秀な人材が輩出しており，市民らの先人や偉人，人物伝に関する嗅覚は他の地域よりも鋭いものがあるかと考えます。

しかし，より大切なことは記念誌「維新の若きサムライ，一井正典とその時代」にも書きましたが，それらの逸材を輩出した背景となるものです。

その第一はその後ろ盾となってその人物を醸し出した一井正典の地元人吉での支援者、江嶋五藤太の存在を蔑ろにするわけにはいきません。彼の発想には「人に尽くす」「地域に尽くす」という信念があり、「我れ先きに」という自己中心的ではなく、「まず相手に与える、相手を中心にものごとを考える、内よりも外に眼を向ける」という志向性を有した精神構造を持っていたことです。同時にその根底としてこの人吉球磨の持つ風土力、求心力、時代力、教育力という大きな原動力⁴⁾が当時この地域に存在したからだと考えています。

今回の一井記念行事のねらいは：

1. 地域の人々はもとより医療界でも知られていない、一井正典という人物をより知ってもらうこと
2. その理由は“時代の夢”を追い求めた一井のユニークさ、面白さとその歴史的背景にあります
3. この人物情報を当地域だけではなく、広く県内、全国、さらには米国へとつなぎ、新しい日米交流の懸け橋として、素材の一つとなればと考えます
4. この人材の魅力がどう発信され、それがどう活かされるのか、具体的には一井正典を始めとする郷土の人物遺産という資産を学術資源、教育資源、観光資源としてどう利用出来るかが大切です
5. そのためには、多くの皆様に印刷物や映像、演劇、講談などを通じて、一井正典の事跡を単に医療人としてだけでなく、時代的、世界的、国際的な視点を含めて紹介出来る機会を増やすことにあるかと考えます

今後の一井正典関連記念行事については、今秋以降、下記の行事が予定されています。

1) ペンシルベニア州フィラデルフィア市での一井正典生誕 150 周年展示会

一井正典の生誕にちなみ、一井正典が 1891 年に卒業したフィラデルフィア・デンタルカレッジの後継校であるテンプル大学歯学部歴史博物館にて生誕記念展示会(図 19)が開催される予定です。今年は一井が卒業して 121 年目になります。

Event theme : “My Ambition to be a Dentist”

「歯科を志す」一井正典

Sub title : Dr. Ichinoi Masatsune and the Spirit of Modernization in Japan
明治以降の日本へ近代化を導いたドクター一井正典

Date : September 21~22 (Friday-Saturday) 10:00AM-5:00PM

日時:平成 24 年 9 月第 3 週末(9 月 21 日~22 日) 午前 10 時~午後 5 時

Place : Temple Univ. Kornberg School of Dentistry

3223 North Broad Street Philadelphia, PA19140 U. S. A.

会場:米国ペンシルベニア州フィラデルフィア市 北大通り 3223

テンプル大学歯学部歯科歴史博物館

Contents : to display Dr. Masatsune Ichinoi's memorabilia as a part of the events for the 150th birth year celebration.

内容:一井正典先生の在米時代に関する歯科歴史資料、人吉市の紹介展示

併せて地元歯科医師会向け 150 周年記念シンポジウムも開催予定:

“Dr. Ichinoi 150th Symposium, “Fixed Prosthodontics”: Past, present, and future.”

「固定式補綴治療法の過去、現在、未来」

2) 一井生誕 150 周年記念「一井正典展示会、西洋歯科歴史展」の開催

タイトル案「日米をジググリットかけた歯科医・一井正典」人物展(仮題)

会期:平成 24 年 10 月 6 日~12 月 9 日(予定)

場所:人吉城歴史館 人吉市麓町 18-4
TEL 0966-22-2324

予定:一井正典先生の人物紹介、米国からの書簡、写真類及び当時の医療器具、歯科歴史資料など、可能ならば関連の講演会、人物講談などを予定。

ぜひ一度、九州新幹線からほど近い九州の小京都、当地人吉市へお出かけいただければ幸いです。

3) 今秋、一井正典が米国で青春時代を過ごした場所へ田中信孝人吉市長による表敬訪問が予

定されています。そこは一井正典の第二の故郷、米国カリフォルニア州ロスガトスの町です。そこの学童並びに市民レベルの人物交流、歴史交流、文化交流が予定されています。

この6月の市民有志と地元歯科医師会による一井正典生誕150周年のプレ・イベントとしての1週間の記念セレモニーが終わり、それらがこの秋の米国フィラデルフィアそして人吉市主催のメインの記念行事へとつながっていきます。「継続は力なり」。この150年の節目が次の没後100年(2029年6月5日)、さらには生誕175周年(2037年6月8日)など、次世代の節目へとつながることを期待する次第です。

<謝辞>

今回の一井正典生誕150周年の企画は、市民有志の会である「ジュグリット先生を讃える会」(前田一洋会長)のご発案でなされたものでした。終わりにあた

り、一井家、江嶋家を始め、この会のメンバーの皆様方、そしてご支援、ご協力、ご後援をいただいた本学会、東京歯科大学他の諸大学、人吉市及び熊本県歯科医師会等の諸団体、人吉市他の行政、並びに多くの関係の皆様方に厚く御礼を申し上げます。

参考文献

- 1) 白帆影人「非凡? 平凡? (三)」人吉文化第4号 24頁 昭和32年9月
- 2) 松本晋一「維新の若きサムライ、一井正典とその人脈たち」第667号10~11頁(平成23年11月)、同第668号11~12頁(平成23年12月)、同第669号6~7頁(平成24年1月) 熊歯会報(熊本県歯科医師会会報)
- 3) 松本晋一、渋谷敦「郷土熊本の先人・一井正典への地域市民らの認知度について」第38回日本歯科医史学会事後抄録 日本歯科医史学会会誌 平成22年10月
- 4) 松本晋一「維新の若きサムライ、一井正典とその時代」43~44頁 熊本県歯科医師会 平成24年6月

著者への連絡先：松本晋一

〒868-0004 熊本県人吉市九日町115

TEL：0966-22-2928 Email：smatsu@fsinet.or.jp